

<株式会社エフエム東京 第 461 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和元年 9 月 3 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（3 名）

ロバート キャンベル 委員長代理 渡辺 貞夫 委員  
川上 未映子 委員

◇欠席委員（3 名）

横森 美奈子 委員長 内館 牧子 委員  
秋 元 康 委員

◇社側出席者（8 名）

黒坂 代表取締役社長  
西川 取締役副社長  
小川 常務取締役  
森田 執行役員編成制作局長  
兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長  
延江 編成制作局ゼネラルプロデューサー  
宮野 編成制作局次長 兼 編成部長  
若杉 編成制作局制作部長  
増山 番組プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 27 分）  
『村上 JAM』 8 月 25 日（日）、9 月 2 日（日）19:00～19:55 全国 38 局ネット

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI

TOKYO FM をはじめとする JFN38 局では、7月14日（日）、15日（月・祝）に富士山の清掃活動とエコトレッキングを行う企画「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」を開催しました。

「コスモ アースコンシャス アクト」とは、TOKYO FM をはじめとする JFN38 局がコスモ石油とパートナーシップを結び、「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」をテーマに実施している活動です。クリーン・キャンペーン、ラジオ番組「未来へのタカラモノ」、そして野口健トークセッションなど、様々な活動を通じて、地球環境の保護と保全の為に『より自分らしくあるために、楽しみながら、地球にも自分にもやさしい暮らしを選んでいこう』というメッセージを発信しています。

そのシンボリックな活動として、2011年より「コスモ アースコンシャス アクト クリーン・キャンペーン in Mt.FUJI」を開催し、今年で19年目、18回目を迎えました。

今回の開催では野口健、JFN 各局のパーソナリティ（TOKYO FM からは昼のワイド番組『LOVE CONNECTION』パーソナリティの LOVE が参加）、リスナー、スタッフ、全国から集った総勢 165 名が、1泊2日の工程で参加し、1日目に富士山麓（小山町須走地区）の清掃活動、2日目に富士山の5合目～4合目のエコトレッキングを行いました。この日、回収したゴミは、可燃ごみ 7560 リットル、不燃ごみ 7875 リットル、合計で 15435 リットルとなりました。

なお、クリーン・キャンペーンは富士山以外でも毎年、JFN 加盟 38 局のエリアごとに開催しており、これまでに全国 726 カ所での開催、274,621 名の参加、回収したゴミの量は 8,068,998 リットルとなっています。

TOKYO FM が主催する「クリーン・キャンペーン in 東京」は、今月9月29日（日）、荒川河川敷にて開催します。参加パーソナリティは、7月に続き、昼のワイド番組『LOVE CONNECTION』パーソナリティの LOVE、そして、午後5時からのワイド番組、ラジオの中の会社『Skyrocket Company』から浜崎美保、夜8時からのワイド番組『ホメラニアン』から関口舞、金曜午後2時に TOKYO FM|Ginza Sony Park Studio からお送りしている

『TOKYO SOUNDS GOOD』から KEN THE 390、今年3月までクロノスでパーソナリティをつとめ、現在は土曜の生放送番組『Ready Saturday Go』を

担当する綿谷エリナの 5 名。リスナー500 名を募集し、清掃活動後にパーソナリティのトークショーや野菜の詰め放題ゲームなどを行い、パーソナリティとリスナーのコミュニケーションの場を作ります。



▲富士清掃登山の様子



▲回収したゴミ



▲富士清掃登山参加者の集合写真

## ■ 『マイナビ 未確認フェスティバル 2019』 開催

10 代向けワイド番組『SCHOOL OF LOCK!』では、10 代アーティスト限定のフェス『マイナビ 未確認フェスティバル 2019』を、8 月 25 日(日)新木場 STUDIO COAST にて開催いたしました。今年で 5 年目の開催となります。

『未確認フェスティバル』とは、音楽に夢を馳せる 10 代のアマチュアアーティストたちが、バンド、シンガーソングライター、ラッパー等、形式は一切問わず、その“未完の才能”を武器に、「夏フェス」の出場をかけ、しのぎ削る、所謂“音楽の甲子園”です。このフェスティバルから既に何組もの人気アーティストが輩出されています。ファイナルステージの会場となった新木場 STUDIO COAST には、のべ 4,200 人のリスナーが来場。応募総数 3,101 組の

中から、デモ審査・ネット審査・ライブ審査を勝ち上がった 8 組の 10 代アーティストがファイナルステージに挑みました。応援ガールには『SCHOOL OF LOCK!』のリスナーだったという日向坂 46 の渡邊美穂が就任。当日はイベントの開会宣言や、番組パーソナリティのあしざわ教頭とのコラボパフォーマンスで会場を盛り上げました。スペシャルライブゲストには、メディア露出をしない謎に包まれたバンド・CHiCO with HoneyWorks が登場し、10 代への熱いエールを贈りました。また、屋外では軽音楽部限定のステージ「K-ON A GOGO」が開催され、特別ライブゲストに、話題のガールズバンド、ザ・コインロッカーズが出演しました。

審査の結果、グランプリは、北海道・平均年齢 18 歳の 4 ピースバンド「SULLIVAN's FUN CLUB」、準グランプリは山梨県の高校生バンド「ヒライス」、審査員特別賞は東京都の現役女子高生ラッパー「玉名ラーメン」が受賞いたしました。



▲グランプリ受賞の SULLIVAN's FUN CLUB



▲準グランプリ受賞のヒライス



▲審査員特別賞の玉名ラーメン

<第 461 回放送番組審議会議事録>



▲渡邊美穂（日向坂 46）の開会宣言と「SCHOOL OF LOCK!」あしざわ教頭とのコラボ



▲片平里菜のライブ



▲CHiCO with HoneyWorks のライブ



▲ザ・コインロッカーズのライブ

**【委員の意見および社側説明】**

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○クリーン・キャンペーンは、800万リットルのゴミというのは全く想像がつかないので、可視化させることができれば面白いと思う。全国800カ所近い場所でこれまでにやっているようなので、日本ゴミ百名山として繋いでみるなどどうか。

○十数年前から野口健さんと TOKYO FM が共同で取り組み、それが長期にわたり継続していて、大変パワーを感じる。もう少し広く知られてもいい取り組みだと思う。富士山だけじゃなく裾野から全国に広げて、ゴミ百名山にして番組にするなど取り上げ方も工夫をしたらどうか。

■ゴミの可視化というのは面白い視点だと思う。

○よくある東京ドーム何個分のような、何かに置き換えて表現するのも、ユニークで分かりやすく良いのでは。800万リットルよりは想像しやすいと思う。

○未確認フェスティバルについて、ファイナルステージで賞を受賞した10代のアーティストたちは、何か、上のステージというか、横のステージというか、別のステージへ進めたり繋がったりできるといいと思っている。例えば、国や地域がフェスティバルに公式にアーティスト派遣をしたりしている例もある。

○ひと昔前は、プロのミュージシャンになろうとしたら、音楽メーカーや事務所が主催するオーディションに応募して手を挙げてもらうのが主流だった。現在はどうなっているのだろうか。Youtubeなどで表現・活動をして、ある程度実績が上がってきたところを新人発掘担当がスカウトするなど、そういう時代になったのだろうか。

■この未確認フェスティバルは、前身のイベント「閃光ライオット」を含めると今年で12年目となる。おかげさまで定番と言えるイベントに成長して、例年、もちろん今年もだが、レコード会社やプロダクション関係者が約200名来場している。正直（そういったレコード会社の動きを）こちらでコントロールできないほどになっていると感じている。

○このイベントが、ミュージシャンを目指す10代のひとつの登竜門となっている証拠。コントロールは絶対してはいけない。

○音楽をどうやって仕事にしていくか考えたときに、実際どうするかは、過去のやり方は通用しない時代。こうやって、未確認フェスティバルに出場することがひとつのステイタスになるということは、イベントがミュージシャンを志す若い人のために良く機能しているともいえる。そういうプラットフォームはたくさんあって欲しい。

○都や国が文化振興のために予算を組んでいる。選考の過程も含めて、そのような文化プログラムに当てはまる取り組みだと思う。

○ラップももちろんだが、またロックシーンが盛り上がっている。自分を表現したい若い人は一定数必ずいる。そういう人たちをこうやってフックアップして、活動の場を提供しているのは素晴らしいと思う。

○審査員特別賞の玉名ラーメンさんは、名前も注目してしまうが、写真を拝見しても何か感じるところがある。

■日本のビリーアイリッシュになるのでは、と期待させてくれるアーティスト。まだ高校生だが、自分でトラックも全て作っている。これからが楽しみだ。

○今後の活動も注目していきたい。

## 議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『村上 JAM』

### 【放送日時】

2019年8月25日（日）、9月1日（日）19:00～19:55 JFN全国38局ネット

### 【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、8月25日（日）、9月1日（日）19:00～19:55に放送した『村上 JAM』のダイジェストです。

この番組は、TOKYO FMをはじめとする JFN38 局でこれまで 6 回放送されている、作家・村上春樹氏がディスクジョッキーをつとめる特別番組『村上 RADIO』が、村上春樹氏の作家活動 40 周年を記念し、6月26日（水）TOKYO FM ホールにて開催した公開収録型イベント『HARUKI MURAKAMI 40th Anniversary 村上 JAM ～村上 RADIO SPECIAL NIGHT～』を特別番組として放送したものです。

イベントでは、坂本美雨氏が MC をつとめ、音楽監督に村上春樹さんと親交の深い大西順子氏、ゲストに北村英治氏、渡辺貞夫クインテットなど豪華メンバーを迎えた一夜限りのスペシャルライブを実施。さらに、村上春樹ファンであり、兼ねてより親交のあるスガシカオによる「夜空ノムコウ」の弾き語り、高橋一生氏による村上春樹作品の朗読、村上春樹氏本人によるサプライズな朗読など、過去にない、プレミアムなイベントとなりました。イベントの終盤では、ノーベル生理学・医学賞を受賞した生物学者の山中伸弥氏も飛び入りでトークに参加。村上春樹作品のファンであることをエピソードとともに紹介しました。村上春樹氏初の公開収録イベントということもあり、大変大きな反響があり、ハガキと WEB を合わせて約 1 万 2000 通の応募がありましたが、限定 150 名のみの観覧だったため、2 週に渡る特別番組として当日の様様を広く届けました。



◀全員での集合写真

<第 461 回放送番組審議会議事録>



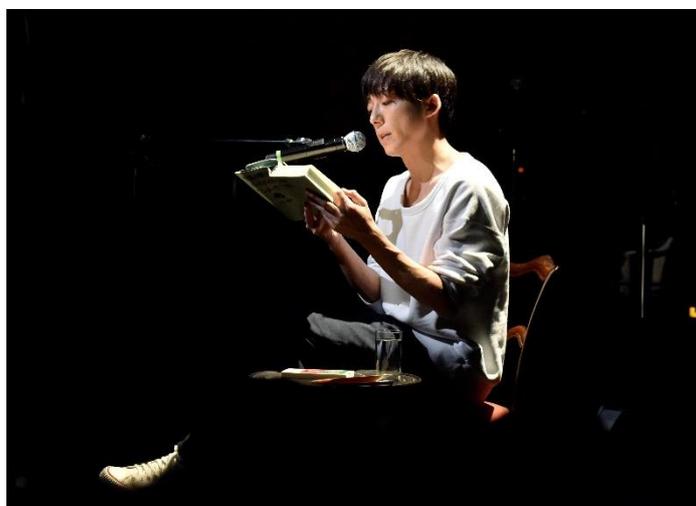
▲大西順子を監督に迎えての村上 JAM バンド



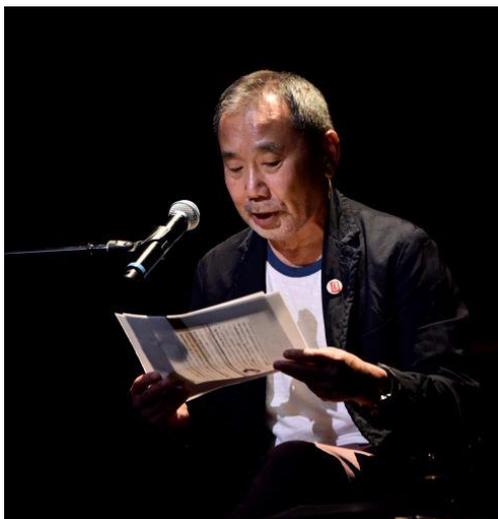
▲渡辺貞夫クインテット



▲スガシカオ



▲高橋一生による村上春樹作品の朗読



◀村上春樹氏本人による朗読

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○このイベントは、当日、現場で観覧させていただいたが、豪華な出演陣と 3 時間以上というボリュームで、イベント終了後も 3 日間くらい余韻というか熱が抜けなかった。会場にいた人たちもみな、頬が紅潮していたように思う。こんなゴージャスで、俗にいう「全部のせ」みたいな夜は、もうこの先ないかもしれないと感じるくらいだった。現場では、そのような体験をしたが、改めて番組として聞くと、とても落ち着いて、地に足の着いた大人のラグジュアリーな時間として聞くことができた。

○この奇跡のような企画は TOKYO FM の歴史、コンテンツの中でも、数本の指に入るようなものだったのではないかと感じた。本当に素晴らしかった。

○普段一緒にジャムセッションをしていない人たち、それも、音楽家だけではなく、文豪や科学者たちがいい意味でのアクシデントが発生していた。北村氏が若いミュージシャンを煽るようなできごととはとても印象深かった。

○イベントを実際に見た立場から改めて番組を聞くと、当日には気付かなかったことがたくさんあった。例えば、高橋一生氏の朗読に関しては、具体的な「意味（物語の内容）」までは当日は頭には入ってこなかった。ラジオで聞くと、くもざるとのやり取り、ナンセンスということがずっと入ってきて、それが、のちの村上春樹氏の朗読とも実は繋がっていることに気付いた。ラジオという（リスナーと）緊密な時間だからかもしれない。また、村上春樹氏と山中伸弥氏の「続編をじゃあわたしが」という会話は、現場では本当にさりげない些細なやり取りで、聞き逃してしまいそうなものだったが、改めて番組で聞くと、しっかりと意味が伝わってきて、とてもユーモアのあるやり取りということに気付かされる。

○最後の「チュニジアの夜」は、本当に非の打ち所がない演奏だったが、番組として改めて聞くことで全容が掴めた気がした。

○出演者のトーク中の BGM はない方が聴きやすいと感じた。

■これは、あえて入れた BGM ではなく、会場で収録したトークパートに、サウンドチェックの音が入ってしまったもの。確かに BGM がない方が聞きやすいが、臨場感を伝える結果になったと思う。

○これだけの規模のイベントになると事前の準備はいくらあっても足りないもの。欲を言えばライブの時間はもっと長くても良かった。

○イベント前のコメント、イベント後のパーティでのみなさんの声を収録して番組に取り入れたのは、イベントの臨場感が伝わってとてもいい演出だと思った。

○村上氏がまたやりたいと言っていたのでぜひ第二弾を開催して欲しい。

■実はあのイベントの参加者同士から誕生した全く別の企画などもあり、今後発表していく。このイベントについては、あまりに熱が高く、そう何回も頻発できるものではないので、また今後についてはじっくりと考えていきたいと思っている。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「Ready Saturday Go」

9月28日(土)7:00~7:20放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>